

ふるさとを知り、ふるさを創る学習の充実事業
「結の故郷ふるさと学習交流会」の成果に関する調査

資料2

学校名	有終西小学校
校長名	竹村 和貢

学年	3年	4年
ふるさと学習に関する単元名 (総合的な学習の時間)	安くてしんせん！西の子朝市	大野の水&寺町調べ隊
時数(年度初めの計画)	54	50
主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・朝市見学、朝市修行 ・さつまいも、だいこんを学校園で育てる。 ・さといもを上庄地区で育てる。 ・朝市クッキング(出店の際のレシピ作成) 	<ul style="list-style-type: none"> ・清水調査、水質調べ(温度・透明度など) ・地下水調査(社会科との関連) ・寺町探検(観光ボランティア) ・名水講座(市役所より講師を招いて)
発表の場や、地域との交流 (ふるさと学習交流会以外で)	<ul style="list-style-type: none"> ・11月中旬に朝市に出店 ・3学期に朝市ありがとうパーティーを行い、お世話になった人を招待し、学習したことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・11月中旬、観光客を相手に観光大使として寺町を案内する。
「結の故郷ふるさと学習交流会」の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが肉声で堂々と発表する場は、とてもいい経験になる。 ・各校の発表を見て、子どもたちは刺激を受けていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に密着しまちづくりに参画した取り組みにより、生きる力を育むことができた。
「結の故郷ふるさと学習交流会」の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の準備や練習に割く時間が多く、他の教科を削って発表準備に回さないといけない。5時間特別に費やした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期は行事が多く、練習にも時間をとられるため授業の進み具合が心配だ。年度初めより5時間ぐらい多く費やした。

※発表や交流の様子の写真 「寺町ミニ観光大使」



ふるさとを知り、ふるさとを創る学習の充実事業
「結の故郷ふるさと学習交流会」の成果に関する調査

学校名	有終南小学校
校長名	金井 和信

学年	3年	4年
ふるさと学習に関する単元名 (総合的な学習の時間)	おりなそう 人とイトヨとふるさと大野	水のめぐみんとめぐりん
時数(年度初めの計画)	50	50
主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・イトヨについての学習 ・「イトヨの里」との連携、ポスター作製、石絵(イトヨに関する絵)の掲示、ラベンダーを植える、ポップリにしてイトヨの里におき、プレゼントとする等。ロイさんと歌をつくる。写生大会など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本願清水、木瓜川、馬清水の水質調査。 ・流し素麺、かき氷をして水のおいしさを味わう。 ・水ようかん、そばなどほかの調査、大野の水のおいしさのアピール活動。
発表の場や、地域との交流 (ふるさと学習交流会以外で)	・学校開放日の結たい夢(学年発表会)で発表。	
「結の故郷ふるさと学習交流会」の成果	・他校の学習の様子を知る貴重な機会になった。	・他校の学習の様子を知る貴重な機会になった。
「結の故郷ふるさと学習交流会」の課題	発表しようと思うと負担が大きい。発表時間に制約があるため、児童の創意工夫を活かした活動ができない。来年度からは学習交流会をなくしてほしい。 (実際にかかった時数56)	大道具や演出、その他様々なことで制約を受ける。中学年の総合的な学習の時間は、自分たちの地域について課題を見つけたり、調査したり、表現・発信することが大切であり、校内や保護者向けの発表で十分だと考える。 (実際にかかった時数55)

※発表や交流の様子の写真 「Sing J Roy さんとのイトヨソングづくり」



ふるさとを知り、ふるさとを創る学習の充実事業
「結の故郷ふるさと学習交流会」の成果に関する調査

学校名
校長名

有終東小学校
北川 博之

学年	3年	4年
ふるさと学習に関する单元名 (総合的な学習の時間)	とびだせ お宝 発見し隊	大野っ子 お宝 たんてい団
時数(年度初めの計画)	30	40
主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 地域の伝統芸能(しぐさ踊り)を学ぶ。 地域のお宝(特色ある工場やお店)を訪問。工夫や願いなどについて体験を交えながら取材し、リーフレットにまとめ発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のお宝(特色ある工場やお店)をインターネットで調べる。工場やお店を訪問し、体験を交えながら取材し、リーフレットやポスターにまとめる。
発表の場や、地域との交流 (ふるさと学習交流会以外で)	<ul style="list-style-type: none"> しぐさ踊り保存会の方を招き、練習会を3回行った。保存会の方々を招き、11月16日の全校集会で披露した。 訪問した工場やお店の方々を招き、12月6日の全校集会で作成したリーフレットを手渡した。 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問した工場やお店の方々を招き、12月6日の全校集会で学習の成果を発表した。作成したポスターを、人がよく集まる場所に掲示させてほしいと依頼し、学校近くの郵便局等に貼らせてもらった。
「結の故郷ふるさと学習交流会」の成果	<ul style="list-style-type: none"> 発表の機会があることで、学習の成果がしっかりとまとめられているように思う。 他校の取り組みから、ふるさと大野を幅広く学ぶよい機会になっていると思う。 	
「結の故郷ふるさと学習交流会」の課題	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は発表がなかったため、計画した時間内で行うことができた。 発表の内容がパターン化してきており、総合学習本来の探究的な学習にまで深まっているかどうかについては少々疑問を感じている。また、発表となると見栄えも気になり、どうしても時間超過となりがちである。 	

※発表や交流の様子の写真

「しぐさ踊りの練習会」



「しぐさ踊り 発表会」



「工場やお店の見学」



「ふるさと学習発表会」



「リーフレットにまとめ 提案を」



「みんなで ポスター貼り」



ふるさとを知り、ふるさとを創る学習の充実事業
「結の故郷ふるさと学習交流会」の成果に関する調査

学校名 小山小学校
校長名 前田満里子

学年	3年	4年
ふるさと学習に関する単元名 (総合的な学習の時間)	小山地区の自慢	小山地区をアピールしよう
時数(年度初めの計画)	26	15
主な活動内容	○小山地区の自慢について調べる。 ・探検する。 ・地区の人から話を聞く。 ・地区の人から鞆踊りを習う。	・小山地区の歴史について調べる。 ・小山地区のよいところを紹介するパンフレットを作る。 ・小山小学校を紹介するパンフレットを作る。 ・地区の人から鞆踊りを習う。
発表の場や、地域との交流 (ふるさと学習交流会以外で)	・10月に小山まつりで鞆踊りを発表した。 ・12月に大野福祉会のクリスマス会で鞆踊りを発表した。	・10月に小山まつりで鞆踊りを発表した。 ・小山まつりで作ったパンフレットを来校者に配った。
「結の故郷ふるさと学習交流会」の 成果	・大勢の前で発表することによって、緊張感や成功感を体験できた。 ・他校の発表を見ることによって、大野について知ることができた。 ・上級生との練習や、他校の発表から刺激を受けた。	・大勢の前で発表することによって、緊張感や成功感を体験できた。 ・他校の発表を見ることによって、大野について知ることができた。 ・他校の発表から刺激を受けた。
「結の故郷ふるさと学習交流会」の 課題	・教員、児童ともより良い発表にしようと仕上げの練習にもっと時間が欲しくなってしまう。 ・結果的に、計画以上に時数が増え、担当者の負担・負担感が増えた。 ・総時数30(4時間増)	・教員、児童ともより良い発表にしようと仕上げの練習にもっと時間が欲しくなってしまう。 ・結果的に、計画以上に時数が増え、担当者の負担・負担感が増えた。 ・総時数18(3時間増)

※発表や交流の様子の写真 「校内発表会」



ふるさとを知り、ふるさとを創る学習の充実事業
「結の故郷ふるさと学習交流会」の成果に関する調査

学校名	乾側小学校
校長名	大塚 俊浩

学年	3年	4年
ふるさと学習に関する単元名 (総合的な学習の時間)	ふるさと —乾側の宝さがし—	(複式のため、3年と同内容。 めあてが少しグレードアップする。)
時数(年度初めの計画)	45	
主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・乾側の宝さがし ・雨乞い踊りを伝える 	
発表の場や、地域との交流 (ふるさと学習交流会以外で)	<ul style="list-style-type: none"> ・地区夏祭り ・市文化祭 — 錦秋の調べ— ・ふるさと芸能発表会 ・ふれあい集会 	
「結の故郷ふるさと学習交流会」の 成果	<ul style="list-style-type: none"> ・発表のある年は、児童に大勢の前でプレゼンをする機会を得た。 	
「結の故郷ふるさと学習交流会」の 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・発表のために膨大な時間がかかり、「子どもの主体的な学び」からはかけ離れ、教師の指導が中心となる。総合で本来培う力を身に付ける時間が殆ど取ることができない。 ・発表のある年は、隔年でよく似た内容を含めると5回発表することになり、総合70時間のほぼ全部がそのために費やされる。また、3学期も篠笛の練習等の練習は続けている。 ・個人のレベルでの発信力が高められているのかが難しい。集団レベルでのパフォーマンスの仕上がりは素晴らしいと思うが、学校同士の発表を見て何か思うことでよしか、それとも個人が発表することで互いに学びあうのか、どこに重きを置いているのかがぼんやりしている。 	

※発表や交流の様子の写真 「ふるさと学習交流会がある年の1年」

8月12日 乾側地区夏祭り 	8月14日 ふるさと芸能発表会 	
11月3日 ふれあい集会 	5日 錦秋の調べ 	29日 ふるさと学習交流会 

ふるさとを知り、ふるさとを創る学習の充実事業
「結の故郷ふるさと学習交流会」の成果に関する調査

学校名	下庄小学校
校長名	大石 貴昭

学年	3年	4年
ふるさと学習に関する単元名 (総合的な学習の時間)	ふるさと下庄を知ろう	
時数(年度初めの計画)	3 6 時間 (調べ・まとめ学習22h, 発表準備14h)	3 2 時間 (調べ・まとめ学習18h, 発表準備14h)
主な活動内容	3, 4年生を①篠笛と和太鼓②ふるさと「下庄」巡り旅の歌と踊り③下庄の伝説④下庄の紹介の4つのグループに分け、それぞれのグループが調べたりまとめたりしたことを発表した。	
発表の場や、地域との交流 (ふるさと学習交流会以外で)	ふるさと学習交流会に向けて、保護者にも連絡周知し、全校児童、職員、保護者の前で校内発表会を行った。 地域の篠笛、和太鼓指導者から指導を受けたり、下庄をよくする会の文化部の方を招いて『ふるさと「下庄」巡り旅』の歌と踊りを指導していただいたりして、地域人材の活用も行った。	
「結の故郷ふるさと学習交流会」の成果	大野市の事を広く知ったり、発表のためには、様々な練習を積み重ねなければならぬということに自覚したり、大きな会場のステージの上で発表する経験を積んだり児童にとってよい体験になった。	
「結の故郷ふるさと学習交流会」の課題	上記の様に児童にとってよい体験にはなるが、合同発表会ありきの総合的な学習の時間の取扱いになってしまい、探求的な学習にかかる時間の確保が難しいのではないかと考える。大きな発表会を成功させようということに熱が入ってしまい、予定時数を上回っている活動もあり、児童・教員にも負担がかかっているのではないかと考える。 ※予定時数をオーバーした時数 3時間	

※発表や交流の様子の写真 「ふるさと学習交流会 校内発表会」



ふるさとを知り、ふるさとを創る学習の充実事業
「結の故郷ふるさと学習交流会」の成果に関する調査

学校名	阪谷小学校
校長名	末永 巖

学年	3年	4年
ふるさと学習に関する单元名 (総合的な学習の時間)	阪谷の宝を調べよう	
時数(年度初めの計画)	55	
主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわりを育て収穫し、自然保護センターに種を贈呈する。 ・そばの栽培、そばの収穫・脱穀をする。 ・桃木がまで、そばの器を作成する。 ・「スターランドさかだに」でそば打ち体験をし、自分の作った器でそばを味わう。 	
発表の場や、地域との交流 (ふるさと学習交流会以外で)	<ul style="list-style-type: none"> ・「スターランドさかだに」でひまわりの栽培に携わっている方にゲストティーチャーとして来ていただく。 ・阪谷桃木窯工房の方に教えていただきながら器作りをし、そば打ちにも来ていただいて、一緒にそばを食べる。 ・県自然保護センターに出かけ、ふるさとの自然や動物について学ぶ。 	
「結の故郷ふるさと学習交流会」の 成果	<ul style="list-style-type: none"> ・大勢の人の前で発表したことは、子どもたちの自信につながり、ふるさと阪谷への愛着を深めることができた。 	
「結の故郷ふるさと学習交流会」の 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の準備や練習に時間がとられる。(5時間特別に費やした。) ・昨年度は、2・3年、4・5年の複式であったため、3・4年生と一緒に活動したり、発表の準備をすることは、大変だった。 	

※発表や交流の様子の写真 「そばうち体験」



ふるさとを知り、ふるさとを創る学習の充実事業
「結の故郷ふるさと学習交流会」の成果に関する調査

学校名	富田小学校
校長名	馬道 保

学年	3年	4年
ふるさと学習に関する単元名 (総合的な学習の時間)	富田のたからつたえ隊	富田の水防衛隊
時数(年度初めの計画)	40	40
主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・富田地区の石碑、旧跡を調べる。 ・塚原地区の区長によるお宝案内昔の生活についてインタビュー。10月実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水、環境。みどりねっと福井の青木さんから5年間水質調査をしている。 ・富田地区の内川の水質調査、生き物調査をしている。生き物から水質の美しさを調べている。1、2学期に1回ずつ川に入って調査。それを元に自分たちができることを考える。
発表の場や、地域との交流 (ふるさと学習交流会以外で)	<ul style="list-style-type: none"> ・すきすき大集会。(11月) ・集落センターで料理をごちそうになり、老人クラブの方に音楽を披露したり、けん玉や折り紙で交流したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すきすき大集会。
「結の故郷ふるさと学習交流会」の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達は自主的にシナリオを考えて取り組んでいた。他校の発表それぞれ特長があり、いい経験となった。 	発表を通して、自分たちの地区だけではなく、大野についてよく知る機会になった。同学年による他校の発表も真剣に聞き入っていた。
「結の故郷ふるさと学習交流会」の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・シナリオ作成や発表練習にかかる時間が多くなり、約6時間ほど追加で時数を増やした。この時期は他の行事も多く、負担が大きい。 	当初の計画より7時間程度増やした。発表練習にかかる時間の負担が大きいのが課題である。よりよいものを見せたいと思えば思うほど、時間増は避けられない。

※発表や交流の様子の写真 「水質調査in内川」



ふるさとを知り、ふるさとを創る学習の充実事業
「結の故郷ふるさと学習交流会」の成果に関する調査

学校名	和泉小学校
校長名	齊藤 孝実

学年	3・4年
ふるさと学習に関する单元名 (総合的な学習の時間)	ふるさと和泉じまん
時数(年度初めの計画)	51
主な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・昇竜太鼓、篠笛の練習 ・昇竜まいたけ工場の見学 ・ヤマメの放流 ・紅葉まつりへの参加 ・和泉の伝説調べ ・和泉の特産物調べと栽培・収穫
発表の場や、地域との交流 (ふるさと学習交流会以外で)	<ul style="list-style-type: none"> ・大野市漁業協同組合の方にヤマメやアジメドジョウについて話を伺う。 ・4月の新緑まつりに向けて篠笛保存顕彰会の方に指導してもらう。 ・新緑まつり、敬老会で昇竜太鼓、篠笛を演奏する。 ・11月下旬紅葉まつりにて昇竜太鼓・篠笛を演奏する。 ・紅葉まつりで、赤い羽根募金のお礼として収穫した穴馬かぶらを渡す。 ・学校公開日に、学習したことを発表する。
「結の故郷ふるさと学習交流会」の 成果	<ul style="list-style-type: none"> ・和泉地区の自慢できるものを探す活動を通して、改めていろいろなものの価値を再確認し、ふるさと和泉を誇りに思うことができた。 ・堂々と発表する経験が、子どもたちの自信につながった。また、他の学校の発表を聞いて児童は、「あまり知らない学校のことが、そこはいい所なんだなと分かった。」など、大野への知識を深めるよい学びの場になった。
「結の故郷ふるさと学習交流会」の 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数で取り組まなければならない、年度によってとても厳しい。 ・練習時間が当初の計画よりも必要になり、4時間追加で費やした。 ・総合的な学習の時間が準備や練習でほとんど費やされてしまい、本来総合で目指す学力が十分ついていない。

※発表や交流の様子の写真 「紅葉まつり」

